

## 月刊ネット時評

5月



やまがた ひろお  
山形 浩生  
(評論家)

ネット議論についてぼくや稲葉振一郎が書くのは、いささかマッチポンプ的な側面もある。というの

や情報を加えてマスコミ報道などを検証修正することでもっと民主的な世論形成が可能ではないか、というわけだ。確かに、そうなることもある。窓の外はいい天気だ。だが新型インフルエンザでは、そうはならなかった。この件については既存マスコミとネット論者たちは、

毎月1回、山形浩生、明治学院大学教授の稲葉振一郎、批評家の宇野常寛の3氏が交代で執筆します。

## 少ない情報源での議論に限界

の二人は、ネット上での多くの議論で、単なるウォッチャーどころか当事者であることも多いからだ。

今回の件も、多少そんなところがある。今回の件とは、新型インフルエンザに関するネットの反応だ。

インターネットに伴う自由な言論と民主主義の高まりについては、多くの人が期待と希望を表明している。多くの人がブログで意見をいいあい、独自の分析

まったく同じことをやった。数少ない情報源であるWHOや保健当局の発表をもとに、話を誇張してお

ったのだ。スペイン風邪では何百万人死んだ、今回もすごいことになりかねない、ほらパンデミック目前だ云々。

確かに、当初のメキシコ状況に関する報道は、感染者がまたたく間に数千人に達して死者も百人超というすさまじいものだった。

## 新型インフルエンザ

た。過剰な反応もやむを得ない。でも四月末時点頃には、感染者も死者もそんなにいないことは明らかになっていった。それなのにネットでの論調は相変わらず。たとえば稲葉振一郎のプログなどは未だに新型インフル情報をトップにあげ、豚肉に対する風評被害を懸念する同じ記事で、豚肉には

できないのか？理由は簡単。情報の出所がそもそも限られているからだ。別の視点や情報がない。結果として、両者は同じネタをもとに、自分の不安や聞きかじり情報を足すしかできなかったからだ。そしていっばん恐ろしいことを言いたやつが目立ち、みんなお互いの不安を参照し合

保健当局が多少用心気味の反応をするのは仕方ない。後々詰め腹切られるのもいやだろうし。でもそれに対して、本当ならマスコミなりネットなりに期待されるのは「さはさりながら、多少は入ってくるのは仕方ないでしょ」と冷静に指摘することだったはずだ。国内感染者数をいくら騒いだところで、一般人にできるのはうがいと手洗い励行くらいなんだし。

よく火を通せなどと書いて自ら風評を悪化させている。

これは一方で、舛添要一厚労相を筆頭に保健当局の情報伝達のまずさでもある。今、アメリカからの直行便は、すさまじい検疫体制だが、ソウル等などの経由便はほぼ完全にフリーパスだという。当局だって水も漏らさぬ検疫が狙いではなく、ある程度入り口をし

それはいいと思うし、せればいいと思うし、かと思っ

一方のマスコミも当初の過大な死者数を掲載し続け、国内感染例が報告されてからはネットもマスコミも、スペイン風邪は数年たつてから突然変異したから今回もヤバイかもしれないと楽しみに脅すばかり。

い、それが増幅する。これは一方で、舛添要一厚労相を筆頭に保健当局の情報伝達のまずさでもある。今、アメリカからの直行便は、すさまじい検疫体制だが、ソウル等などの経由便はほぼ完全にフリーパスだという。当局だって水も漏らさぬ検疫が狙いではなく、ある程度入り口をし

それはいいと思うし、せればいいと思うし、かと思っ

なぜこの件では、ネットもマスコミも同じことしか

い、それが増幅する。これは一方で、舛添要一厚労相を筆頭に保健当局の情報伝達のまずさでもある。今、アメリカからの直行便は、すさまじい検疫体制だが、ソウル等などの経由便はほぼ完全にフリーパスだという。当局だって水も漏らさぬ検疫が狙いではなく、ある程度入り口をし

それはいいと思うし、せればいいと思うし、かと思っ